

第三セクターの経営改善計画の進捗状況について

「第三セクターの見直しに関する指針」により、単年度収支及び剰余金がマイナスの第三セクターは「経営改善計画」作成の対象となることから、次の2社が経営改善計画を作成している。

① 「経営改善計画」作成対象第三セクター

1) (株) フォレストア島海 (ホテル フォレストア島海)

計画期間 令和7～9年度

⇒ **【市運営費補助金 35,000 千円・その他補助等 16,953 千円】**

2) (株) ほっといん島海 (伏見、笹子農産物直売所ほか)

計画期間 令和6～8年度

⇒ **【経営悪化に伴い R6 より経営改善計画策定、R7 見直し実施】**

② 内部検討委員会での点検・評価について

経営改善計画は、毎年度、行政改革推進本部の内部検討委員会で進捗管理を行うこととしており、上記2社から、令和7年度の決算資料及び、経営改善計画の進捗状況に関する自己評価の提出があり、これをもとに市が点検・評価を行っている。

③ 各社の進捗状況等 (詳細は「資料2-2」のとおり)

1) (株) フォレストア島海

< 計 画 >

- ・令和7年度より改善計画を改定し、台湾のインバウンド誘客や国内ツアーの販路拡大により売上拡大を図ること、シフト体制の見直しにより時間外勤務を適正化するなど経費節減等を計画していた。

< 実 績 >

- ・インバウンド需要の回復や冬期誘客促進事業の実施により宿泊利用は一定程度増加したが、宿泊者数は目標に達せず、売上高も計画を下回った。その要因として、繁忙期に国内ツアー客への依存が大きく、個人旅行者の誘客が十分に図られなかったことが挙げられる。
- ・当期損益は赤字で、市の運営費補助金を除くと債務超過状態が続いており、計画は未達成となった。

2) (株) ほっといん鳥海

< 計 画 >

- ・直売部門の販売手数料の値上げ、食堂部門の客単価の向上、冬期間の人件費削減等により黒字化を目指す計画。

< 実 績 >

- ・R 7に販売手数料の引き上げを実施し、条例上限の15%としたことにより収入の増加につながった。食堂部門もメニュー値上げのより客単価が向上した。
- ・冬期間の時間短縮や、人員配置の工夫により人件費の削減が図られ、単年度黒字決算となり、改善計画は達成となった。
- ・R 8からは指定管理の更新に伴い、不採算部門の「鳥海笹子生産物直売所」及び「そば加工提供施設」の受託を辞退し、鳥海伏見生産物直売所のみの指定管理となることから、更なる経営改善が図られる見込み。

④ 達成状況を踏まえた市の対応

(株) ほっといん鳥海は単年度黒字を達成しており、今年度も経営改善の見込みがあるので、現改善計画を継続して取り組んでもらう。

(株) フォレスト鳥海については、計画は未達成ではあるが、前年度と比較して利用者も売上げも増加していること、改善計画で実施することとして取り組めなかった項目もあるため今後の取り組みによっては経費削減が見込まれることなどの理由により、今回の市の評価や改善に向けた提案等を踏まえて現計画の目標達成に向けて、継続して取り組み経営改善を図っていただく。

⑤ その他の第三セクターの状況

1) (株) 岩城（岩城道の駅ほか）

⇒ **【指定管理終了により R5. 4 解散。 R7. 3 清算終了】**

2) (株) 大内町交流センター（大内道の駅ほか）

⇒ **【経営悪化に伴い指定管理者辞退。 R7. 7 清算終了】**

3) (株) 鳥海高原ユースパーク（ミルジーほか）

⇒ **【人員不足等により指定管理者辞退。 R8. 4 清算終了】**

4) (株) 黄桜の里（東由利道の駅ほか）

⇒ **【経営悪化に伴い指定管理者辞退。 R7. 3 解散】**

5) にしめ物産 (株)（西目ふるさと資源活用センター）

⇒ **【指定管理者辞退。 R8. 3 解散】**

第三セクター各社の令和7年度決算状況

(単位：千円)

名称		株式会社 フォレスト鳥海	株式会社 ほっといん鳥海
R7 決算	資本金	50,000	30,000
	剰余金	▲ 43,209	5,928
	純資産	6,790	35,928
	当期純利益	▲ 626	528
	売上高	191,159	48,530
	人件費	84,974	29,232
	市支出額	51,953	7,792
	指定管理料	—	6,760
	エネルギー価格高騰 対策等補助金ほか	16,953	1,032
	運営費補助金	35,000	—
市貸付金	貸付残高	—	—
	貸付内容・償還方法	—	—
民間借入金		—	—
R6 純利益		▲ 7,442	▲ 2,945
R5 純利益		694	▲ 1,540
R4 純利益		5,044	▲ 1,271
R3 純利益		▲ 9,912	221
R2 純利益		24,739	1,008
R1 純利益		▲ 394	161
H30 純利益		▲ 8,179	526
H29 純利益		▲ 12,721	▲ 212
H28 純利益		▲ 5,730	124

※ 剰余金は、これまでの当期利益又は当期損失の累計額

※ 純資産がマイナスということは、資産よりも債務が多いということであり債務超過

※ 当期純利益がマイナスということは、単年度決算において赤字